

平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブの記録



クラブホームページ www.glider.jp

公益社団法人日本グライダークラブ定款より

(目 的)

第 3 条 本クラブは、青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
- (2) グライダー及び曳航機の操縦技術の向上及びその指導者の養成
- (3) グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運行・事故防止対策に関する研究並びにその施策
- (4) グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
- (5) この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
- (6) その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

Club Operation in Apr.2015 ~Mar.2016



平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 公益社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日
公益社団法人日本グライダークラブ
理事長 吉田 正

公益社団法人日本グライダークラブは、国土交通省所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月期は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成 28 年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。


A. 公益目的事業 1(グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成)

I. グライダー普及のための体験搭乗会

	<p>「グライダー体験搭乗会」</p> <p>期 間 :平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月の各 週末・祭日 主 催 : (公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 : 81 名 概 要 :日本グライダークラブのホームページなどを見て来場した体験搭乗希望者に対して、1 日につき 1～5 名の体験搭乗を行い、グライダーおよびクラブの活動への理解を深めた。</p>
	<p>「グライダー教室の開催」</p> <p>期 間 :平成 27 年 11 月 28 日 主 催 : (公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数 : 板倉町在住および在勤者など 1 名 概 要 : 地域との交流、協調を目的として町の広報を通じ、体験搭乗希望者を募集し、グライダーおよび当クラブの活動への理解を深めた。</p>



II. グライダーおよびモーターグライダー操縦士の育成

	<p>「グライダー操縦士の育成」</p> <p>期 間 :平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 : 練習生 7 名 概 要 : グライダー技能証明取得のための学科および飛行について操縦教育を行った。</p>
	<p>「クロスカントリーパイロットの養成」</p> <p>期 間 :平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の週末および祭日 参加人数 : 15 名 概 要 : 高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、ウェーブ (山岳波)、コンバージェンス (大気集束帯) 等を利用して長距離、高高度飛行の訓練を行った。</p>
	<p>「エアロバティックフライトパイロットの養成」</p> <p>期 間 :平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 : 7 名 概 要 : グライダー曲技の訓練を、曲技専用グライダー「フォックス」を使用して行った。</p>




	<p>「操縦教官の養成」</p> <p>期 間:平成 27 年 5 月～10 月 参加人数:1 名 概 要:操縦教育証明取得のための口述および実技練習を行い、10 月 13 日の実地試験で宗会員が合格した。</p>
---	---

Ⅲ. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会



	<p>「受験対策コース」 事業用・教育証明受験準備講習会</p> <p>期 間:平成 27 年 6 月 6・7 日、9 月 5・6 日、 平成 28 年 1 月 9・10 日 参加人数:50 名 概 要:事業用操縦士技能証明および操縦教育証明資格の取得希望者に対して、受験準備のための講習を行った。</p>
	<p>「ソアリング・クロスカントリー講習会」</p> <p>期 間:平成 26 年 5 月 2・3・4・5・6 日 参加人数:6 名 概 要:ベーシックなソアリングおよびクロスカントリーの講習を経験豊富な教官が指導した。</p>
	<p>「異常姿勢回復およびベーシックエアロバティック講習会」</p> <p>期 間:平成 27 年 11 月 21 日・28 日 参加人数:12 名 (座学および実地訓練) 概 要:緊急操作トレーニングの一環として G103 を使用し異常姿勢回復訓練を、また FOX を使用してベーシック曲技課目の学科および実地訓練を行った。</p>
	<p>整備講習会「二等航空運航整備士(上級滑空機)講習会」</p> <p>期 間:平成 27 年 5・6 月および平成 28 年 3 月の 18 日間 参加人数:2 名 概 要:6 月 8 日、1 名実地試験に合格</p>
	<p>整備講習会「二等航空整備士(上級滑空機)講習会」</p> <p>期 間:平成 27 年 4・9・10・11 月の 24 日間 参加人数:3 名 概 要:過去に当クラブの講習会に参加し、二等航空運航整備士に合格した人に、二等航空整備士への限定変更のための講習を実施した。4 月 27 日、11 月 30 日 計 3 名実地試験に合格。</p>
	<p>整備講習会「二等航空整備士(動力滑空機)講習会」</p> <p>期 間:平成 27 年 7・8・9 月の 18 日間 参加人数:4 名 概 要:過去に当クラブの講習会に参加し、二等航空運航整備士、二等航空整備士に合格した人に、動力滑空機への限定変更のための講習を実施した。8 月 24 日および 9 月 24 日に 4 名が実地試験に合格した。</p>

	<p>「AFRコース」(Annual Flight Revue 年次フライトレビュー)</p> <p>期 間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の各 週末、祭日 参加人数：板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員 概 要：板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により 1 年に一度義務付けられている AFR を、滑空機、動力滑空機、曳航機毎に実施した。</p>
	<p>「特定操縦技能審査講習会」</p> <p>期 間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の各月末 参加者：35 名（特定審査受験者 46 名） 概 要：法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦者は 2 年に一度の受験が義務づけられる) 受験のための、受験準備講習会を開催した。</p>


IV. 競技会の開催

	<p>第 5 回 OLC 藤倉記念チャリティーカップ」滑空競技会</p> <p>期 間：平成 26 年 9 月 24 日～平成 27 年 9 月 21 日 主 催：(公益社団法人)日本グライダークラブ 参加人数：109 名 概 要：競技飛行の普及と滑翔技術の向上を目的として、全国のグライダーパイロットが参加する第 5 回 OLC (オンラインコンテスト) 藤倉記念チャリティーカップを開催した。</p>
	<p>平成 27 年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」滑空競技会</p> <p>期 間：平成 26 年 12 月～平成 27 年 11 月 参加人数：37 名 概 要：グライダーの安全飛行のための基礎的な滑空気象の解析能力、および野外滑翔技術の向上を図る目的で、板倉滑空場をベースとして活動するグライダーパイロットを対象として、OLC を利用した月間競技会を開催した。</p>
	<p>平成 27 年度「ゴールデンウイークコンペ」</p> <p>期 間：5 月 2・3・4・5 日 参加人数：22 名 概 要：5 月の連休を利用してクラブ内で競技会を開催した。</p>

V. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会、映画会などの開催


	<p>「救急救命講習会」</p> <p>期 間：平成 27 年 8 月 2 日 参加人数：19 名 概 要：館林および板倉消防署の救急隊員をクラブへ招き、心臓マッサージ、人工呼吸、AED の使用法について実習を行った。</p>
	<p>「操縦インストラクター・曳航パイロットの任用・リフレッシュ訓練」</p> <p>期 間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 概 要：特定操縦技能審査制度および AFR 規定に従って実施した。</p>

VI. グライダーに関する出版物による航空思想の普及

 <p>JSC News 2015/003 創刊27年 (2015) 7月号</p> <p>1. 活動のトピック 「滋賀県立大フェスティバル」9月4日 栃木市主催のフェスティバルにクラブから参加 機体地上展示、観覧飛行体験、会場上空 での飛行飛行などを行った。</p> <p>2. 各地域の飛行練習 滋賀県立大が主催を行い、デュオデュオ スを使用し練習した。 期間 10月15日 参加者 2名</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) クラブホームページの整備 2) 広報誌(クラブニュース)の制作(1年に4回発行) 3) グライダー気象情報の活用: 日本グライダークラブにより紹介されたブリップマップ(BLIP MAP)は滑空界で広く活用されているが、新たに中部、東北、北海道地方も岡村会員によりプログラミングされた。
--	---

B. 公益目的事業 2(航空情報提供事業)

1. 板倉フライトサービスの運用


	<p>「飛行援助用航空局」板倉 FLIGHT SERVICE (130.675Mhz)</p> <p>期 間 : 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の運航日</p> <p>概 要 : 板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、運航日毎にフライトサービス担当者を指名し、付近を飛行する航空機からの飛行情報の要求に的確に対応できる態勢を整えている。</p> <p>AIC041/14 板倉 FS: 滑空場周辺半径 5NM, 5000ft 以下</p>
---	---

C. クラブ組織の整備


1. 定款及び内部規定に従った公益事業執行体制により、業務遂行の充実を図ると共に、新たな業務システムの導入、会員データベースの構築など、作業の効率化を目指した。

D. その他クラブの目的に必要な事業


1. 再生可能エネルギー発電の活用

	<p>「太陽光発電システムの設置」</p> <p>再生可能エネルギーの活用を目的として、太陽光発電システムを格納庫屋根に設置することで、省エネおよび光熱費の軽減に寄与している。</p>
---	--

2. 騒音対策

	<p>「飛行規制区域の設定および飛行経路の変更」</p> <p>概 要 : 騒音対策のため滑空場周辺に4ヶ所の飛行規制空域を設定し、その上空を避けて飛行することを取り決め、また時間帯によっては曳航経路を変更すること、及び騒音の低い動力滑空機を曳航に活用するなどの対策を講じている。騒音クレームには板倉町役場とも連携して真摯に対応している。</p>
---	---

3. 地域との交流

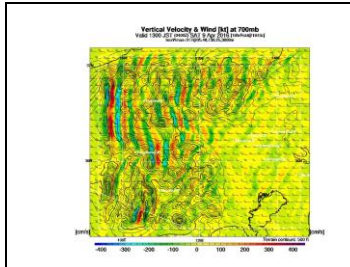
	<p>「渡良瀬遊水地フェスティバル」に参加</p> <p>期 間 : 平成 27 年 9 月 6 日</p> <p>概 要 : 遊水地周辺の各種スポーツ団体が集う、栃木市主催のフェスティバルに参加し、機体地上展示、ペーパーグライダーの作製教室の開催、会場上空の展示飛行を実施した。</p>
---	--



「渡良瀬遊水地クリーン作戦」に参加

期 間 :平成 27 年 4 月 18 日
 概 要 :渡良瀬遊水地周辺で活動する団体の清掃イベントに協調し、滑空場周辺の清掃作業を行った。

4.板倉事務所の充実



「板倉滑空場 事務所の充実」

概 要 :インターネットを利用して気象情報の取得、解析する態勢の充実
 会員データベース、会計システムの整備活用、資料室の整備、
 毎飛行日ごとの安全ミーティング開催スペースの充実を図った。

5.板倉滑空場の整備



「滑走路路面の平坦化、効率的利用方法の検討および滑空記章試験に必要な整備など」

期 間 :平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
 概 要 :クラブ員有志により滑走路南側部分の路面平坦化が進み、滑走路長が伸びた。今後も安全に滑走路全長が使用できるよう、さらに路面の整備を行っていく。

6.ウェーブフライトプロジェクト



「山岳波(ウェーブ)などを利用した、滑空機の長距離、高高度飛行の研究」

期 間 :平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
 概 要 :高性能滑空機により、日本アルプス方面から東北地方、さらには北海道に至る飛行探査、研究を会員の田上氏、丸山氏、市川氏を中心として行った。

7.若年層支援プログラムの拡大



「ラインボーイ制度」




期 間 :平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 週末・祭日
 参加人数 :19 名
 概 要 :若年層支援の一環として、大学航空部員および若手操縦者を対象にラインボーイ制度を策定し、若年層が運航に参加することでクラブに親しみ、入会しやすくする方策を実施している。

8.安全活動の強化




- 1) ヒヤリハットレポートにより経験を共有し、航空事故防止を図っている。
平成 27 年度のヒヤリハットレポート数:9 レポート
- 2) 飛行終了後にディブリーフィングを開催し、安全情報を共有化している。
平成 27 年度は滑空機および小型航空機の航空事故が多発したので、事故事例の紹介、再発防止策も検討した。




9.世界選手権への選手、チームおよびクルーとしての積極的な参加、支援

	<p>「ヨーロッパ滑空選手権に出場」</p> <p>期 間：平成 27 年 7 月 1 日～7 月 25 日</p> <p>概 要：ハンガリー ウーチェニーにて開催されたヨーロッパ滑空選手権の 18m クラスに丸山会員が ASG29E で出場し、総合 20 位の成績を収めた。</p>
	<p>「ポーランド滑空機曲技選手権に出場」</p> <p>期 間：平成 27 年 7 月 6 日～7 月 12 日</p> <p>概 要：ポーランド、トルンにて開催されたポーランド滑空機曲技選手権に酒井会員が MDM-1 Solo Fox で出場し、総合 4 位の成績を収めた。また、鐘尾理事が FAI ジャッジとして参加した。</p>
	<p>「世界滑空機曲技選手権に出場」</p> <p>期 間：平成 27 年 8 月 5 日～8 月 15 日</p> <p>概 要：チェコ ズブラスラヴスで開催された世界滑空機曲技選手権に酒井会員が出場し、総合 22 位の成績を収めた。また、鐘尾理事が FAI ジャッジとして参加した。</p>

10.他団体合宿・練習受入

	<p>板倉滑空場で合宿・練習・体験搭乗会を行った諸団体： 早稲田大学航空部 慶應大学航空部 東京工業大学 OB 会 早稲田大学 OB 会 三田ソアリングクラブ FOX アクロチーム</p> <p>期 間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の週末・祭日</p> <p>概 要：上記団体の飛行活動について運航支援を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。</p>
--	---

11.他団体・連絡会等の交流事業

	<p>世界各地のグライダー関係団体などとの活発な交流</p> <p>概 要：世界各地(ドイツ、オーストリア、フランスなど)の団体・会員が板倉滑空場を訪れ、交流を深めた。</p>
	<p>「全国グライダークラブミーティング」の開催</p> <p>期 間：平成 27 年 6 月 20 日 第 2 回(長野) 平成 27 年 11 月 28・29 日 第 3 回(板倉) 12 クラブ 19 名参加</p> <p>概 要：全国のグライダークラブ運営担当者が集まり、統一的な操縦教育基準や安全対策の構築、運航業務支援、知識・技術の共有、人材交流、講習会・イベントの相互案内策定について討議した。</p>
	<p>「世界滑空協会総会」に出席</p> <p>期 間：平成 28 年 2 月 26・27 日</p> <p>概 要：丸山理事が日本滑空協会理事兼 IGC 委員として、ルクセンブルグで開催された世界滑空協会総会 (IGC ミーティング) に出席し、グライダースポーツのルール変更、競技会開催地等について討議した。</p>

	<p>「FAI 曲技委員会に出席」</p> <p>期 間 :平成 27 年 10 月 24・25 日 概 要 :鐘尾理事がハンガリー・ブダペストで開催された FAI 曲技委員会に日本代表委員として出席した。</p>
	<p>「FAI 医事委員会に出席」「WAG 医学シンポジウムで発表」</p> <p>期 間 :平成 27 年 9 日 18・20 日(英国オックスフォード) 平成 27 年 12 月 4 日(ドバイ) 概 要 :嶋田会員が FAI 医事委員会に日本委員および TUE パネル委員として出席した。</p>
	<p>「航空安全講習会」に講師として参加</p> <p>期 間 :平成 28 年 3 月 5 日 概 要 :旭川市で開催された同講習会で、岡村会員が「BLIPMAP の読み取り方とその活用法」について講演した。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1) 関東西部地区飛行連絡会(航空自衛隊・入間基地)への参加、平成 27 年 7 月 21 日 飛行空域等の情報交換。クラブの紹介。 2) 北関東航空連絡会(陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地)への参加、平成 27 年 11 月 11 日 飛行空域等の情報交換。クラブの紹介。 3) 下総航空基地周辺飛行安全会同(海上自衛隊・下総基地)への参加、平成 28 年 2 月 5 日 飛行空域等の情報交換。クラブの紹介。 4) 渡良瀬アクリメーション会議への参加 板倉滑空場の現況の発表。 5) 渡良瀬スカイスポーツ協議会の連絡会議への参加(毎月 1 回開催) 他のスポーツ団体との情報交換。
	<p>「宇都宮基地訓練ヘリの場外離着陸場としての使用承諾」</p> <p>平成 27 年 9 月、陸自宇都宮航空学校より、板倉滑空場を訓練ヘリの予防着陸のため、緊急時の場外離着陸場として使用したいとの要請があり、航空の安全の観点から、年度毎の使用承諾書を締結した。</p>

E. 活動の記録

1. 発航回数(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月) *日本でも有数規模のクラブ運営を実施。

総曳航回数 1199 回 (曳航機内訳:ハスキー 1086 回 デイモナ 113 回)

デイモナ発航回数 97 回


動力滑空機(SL)自力発航回数 34 回

	機種	飛行時間	飛行回数
個人・グループ機	JA22AT ArcusT	119:36	35
	JA2485 ASW24	85:58	60
	JA21TD DuoDiscusT	81:17	40
	JA22KJ ASG29E	79:57	34
	JA2395 DG300	61:18	24
	JA58HD Discus-2b	60:43	35
	JA2254 MiniNimbusC	53:41	33
	JA2411 DG300	50:47	36

	JA40DG DG400	49:17	13
	JA22MX DuoDiscusXT	48:33	37
	JA800A DG800A	36:50	25
	JA22KF Discus-b	36:12	21
	JA24UK LS4	29:26	20
	JA2348 ASW21L	26:01	21
	JA2516 LS6C	20:57	12
	JA2431 LS4a	18:54	32
	JA08AP Discus-a	20:24	11
	JA2542 PW5	19:49	12
	JA52YH LS3a	17:37	10
	JA20KA MDM-1 Fox	14:15	58
	総飛行時間	912:38	
	総飛行回数		537
クラブ機	JA2444 G102 AstirIIIb	272:02	123
	JA2442 G103C TwinIII	175:35	333
	JA2412 G103A TwinII	117:51	240
	JA2845 Super Dimona	65:95	
	JA4171 Husky	167:27	
	総飛行時間	798:20	
	総飛行回数 (滑空機)		696
総計	総飛行時間	1710:58	
	総飛行回数 (滑空機)		1233

2. 総会員数 142名 内訳: 正会員 97名、賛助会員 45名 (平成28年3月31日現在)
3. 操縦教育証明取得: 操縦教育証明(滑空機)実地試験合格 1名
4. 整備士資格取得 : 二等航空運航整備士(上級滑空機)実地試験合格 1名
二等航空整備士(上級滑空機)実地試験合格 3名
二等航空整備士(動力滑空機)実地試験合格 4名

5. その他の会員活動

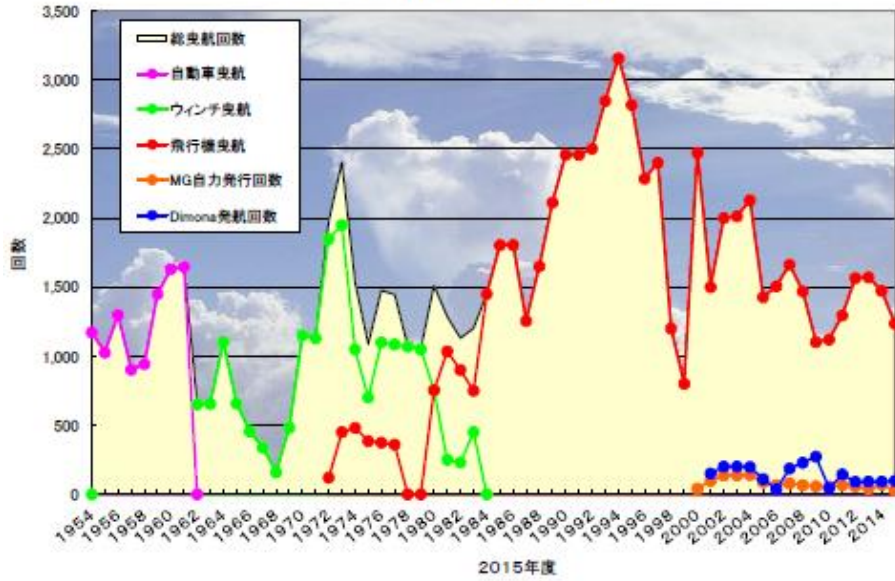
	<p>「空の日 表彰」</p> <p>平成27年9月18日 櫻井玲子会員が、航空スポーツの普及振興に貢献したことでFAIスポーツメダルを受賞した。</p>
---	---

記: 平成27年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

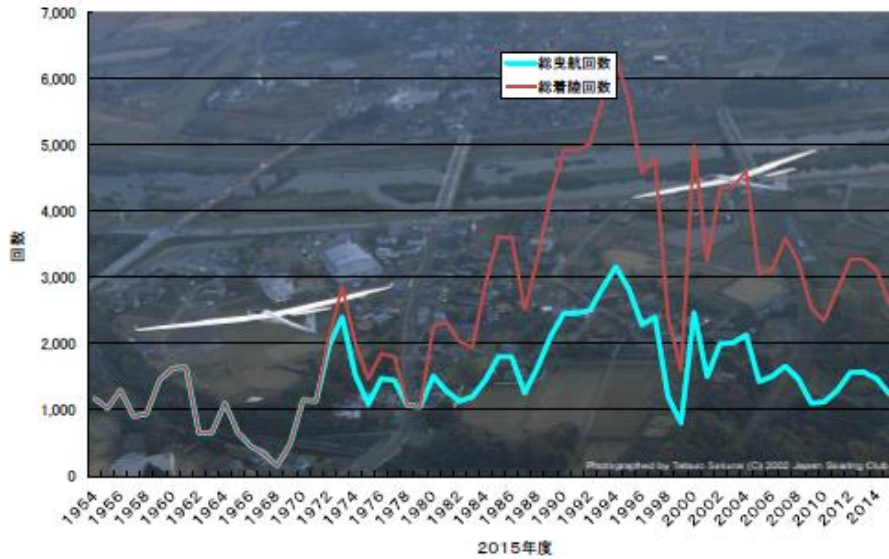
平成28年4月1日

公益社団法人 日本グライダークラブ

曳航回数推移 (1954-2015)



総曳航回数・総離着陸回数対比(1954 - 2015)



公益社団法人日本グライダークラブ

URL : www.glider.jp

◆板倉滑空場

住所 : 〒374-0101

群馬県邑楽郡板倉町除川 1286

TEL/FAX : 0276-77-0830

◆東京事務所

住所 : 〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

(航空会館 9F)

TEL/FAX : 03-3591-7728

E-mail: shinbashi-office@glider.jp

累積着陸回数(1954 - 2015)

